「村田製作所　みなとみらいイノベーションセンター」

Murata Manufacturing Co., Ltd.　Minato MIRAI Innovation Center

清潔感のある石張りの低層部，温かみのあるテラコッタルーバーによる高層部外観

都市型超高層研究施設の居住性を高めた イノベーション施設の構築

17階　ラウンジ：定時後でも交流の場となるラグジュアリーなラウンジスペース

2階　Mulabo!：“目に見える科学”をテーマに電気の基本が学習できる子ども向け科学体験施設

1階　MURATA みらい MOBILITY：過去、現在、未来を繋げて表現したリアル体感型の施設

■超高層建物としての居住性能の追求

みなとみらい地区は国際的にビジネスを展開する企業が多く集まることから、村田製作所にとって新たなコラボレーションが生まれる可能性があった。また、これまで関西圏を拠点としていた村田製作所が東日本で人材登用の機会を増やし、より多様な研究者の人材育成を目指して計画が始まった。

外装計画は、低層部の展示施設部分をガラスカーテンウォールで構成し、誰もが気軽にアクセスできる雰囲気を創り出した。一方、研究開発エリアは外部からの環境負荷低減から、開口部を制限しながら壁面が単調にならないよう水平基調のデザインとした。高層部の研究開発エリアは、セキュリティ確保と環境負荷低減との両立のために閉鎖的になりがちだが、隣棟間隔が離れ、眺望を得られる、みなとみらいの特性を生かしルーバーによる視線制御・日射遮蔽を実現しながらも開放的で周辺環境が感じ取れる計画とした。

■巨大地震に備える高性能制振構造

研究開発施設としての大きな積載荷重と設備更新の為のフレキシビリティに配慮した高階高に加え、建設地で想定される巨大地震に対応する為、省スペース配置の「座屈拘束ブレース＋オイルダンパー」を採用。

告示波（基準法レベル）に対して層間変形角を1/167程度に抑えることで、構造部材の損傷が殆ど生じない高い耐震安全性を確保した。

テラコッタルーバーによる高層部外装ディテール

■ PROJECT DATA

所在地	神奈川県横浜市西区	敷地面積	7,414㎡
主要用途	事務所（研究所）、飲食店、自動車車庫	建築面積	5,448㎡
設計・監理	戸田建設株式会社一級建築士事務所	延床面積	65,335㎡
		階数	地下2階/地上18階/塔屋1階
		構造	鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造
		竣工	2020年10月

■ PROJECT MEMBER

PM	護摩堂 淳
意匠	阿部 真大　四宮 健次　百瀬 雄介
構造	川又 哲也　宮崎 孔貴
設備(別途)	高砂熱学工業　関電工